

群 教 七	G01 - 02
	平29.265集
	国語 - 小

叙述に基づいて的確に読み、 文章の要旨を捉えることのできる児童の育成 — 段落の構成を捉え要点をまとめる「まとめるシート」の活用と グループで話し合うことを通して—

特別研修員 野村 千栄

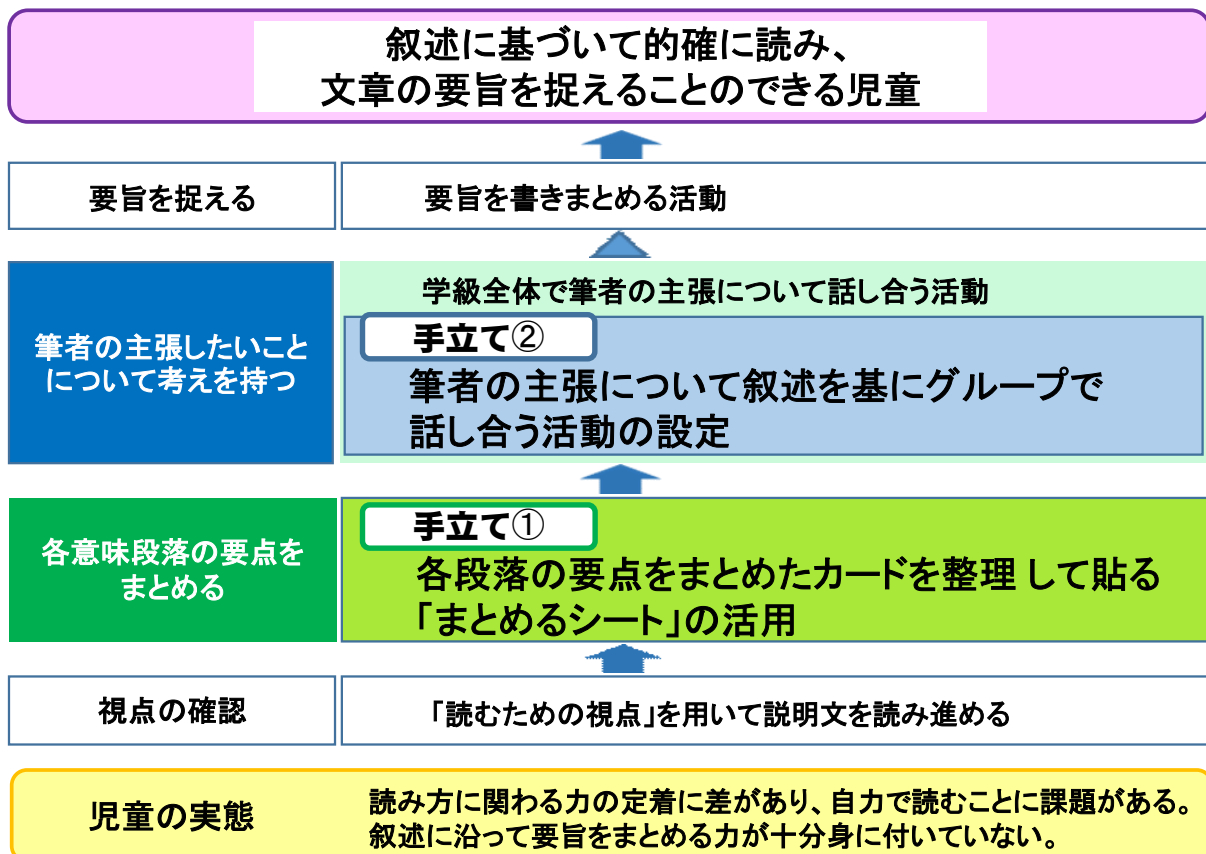
I 研究テーマ設定の理由

群馬県教育委員会の「平成29年度 学校教育の指針」国語の指導の重点には「教材文や資料の中の言葉、叙述、図表などを根拠に、自分の立場や意見を明確にさせた上で、個や集団の考えを広げ深める交流を行いましょう」とある。また、「はばたく群馬の指導プラン」には、「目的や意図に応じて説明的な文章の内容を読み取ること」が課題の一つに挙げられている。それらのことを踏まえ、説明的な文章を叙述に基づいて的確に読み、文章の要旨を捉えることが大切になると考えた。所属校の第5学年の児童は、読み方に関わる力の定着に差があり、自力で読むことに弱さが見られる。結果として要旨を捉えきれないまま単元を終える児童が見られる。筆者の表現の工夫を踏まえ、叙述を根拠としながら要旨を捉えられるようにする指導の工夫の必要性を感じている。

以上のことから研究テーマを設定し、段落の構成を捉え要点をまとめるためのワークシートの工夫及び筆者の主張についてグループで話し合う活動の設定により、要旨について自分の考えを持てるようにする指導を展開することとした。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

ワークシートの工夫及び筆者の主張についてグループで話し合う活動について、以下のとおり構想した。

手立て① 各段落の要点をまとめたカードを整理して貼る「まとめるシート」の活用

各段落の重要語句を抜き出して要点をまとめたカードの関係性を考えながら台紙に貼ることで、意味段落における各形式段落の役割を捉え、意味段落の要点をまとめられるようにするものである。児童は意味段落ごとに「まとめるシート」の作成を繰り返すことで共通点に気付き、意味段落の構成に気付くことにつながる。

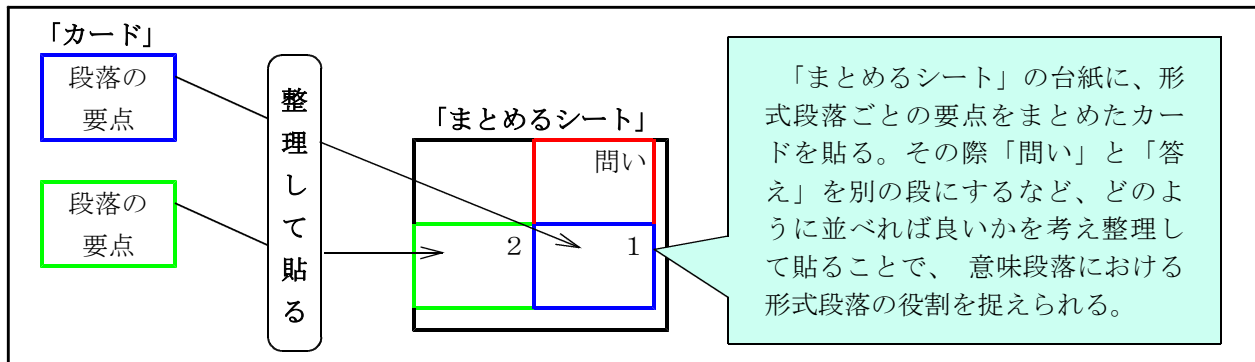


図1 「まとめるシート」について

手立て② 筆者の主張について叙述を基にグループで話し合う活動の設定

筆者の主張したいこととそう考えた根拠について、グループで話し合う活動である。「まとめるシート」を用いて、各意味段落とまとめの段落の関連を捉えた上で、接続語や指示語、文末表現などに着目することで、叙述に沿って読むことにつながる。この活動により、自分の考えを確かにし、その後の活動で、学級全体で筆者の主張について話し合い、要点をまとめることへとつなげていく。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 「まとめるシート」に、各形式段落ごとの要点をまとめたカードを貼り、意味段落として整理する活動をさせたことで、「問い」の段落と「答え」の段落で意味段落を構成していること、三つの意味段落は全て同じ構成となっていることをつかむことができた。また、「まとめるシート」の順番を入れ替え、各意味段落の役割を考えさせたことで、筆者の論の進め方の工夫を理解することができた。
- 筆者の主張を根拠に基づいてグループで話し合うことで、児童は重要語句や接続語、指示語などに着目し、要旨で必要な文はどれかを捉え、自分の考えを確かにすることができた。その結果、学級全体での話し合いが活発になり、要旨をまとめることにつながった。

2 課題

- 常に教材文に戻って読むことを意識させるために、「まとめるシート」などのワークシートだけで読みを進めるのではなく、教材文に戻り、教材文との対応を捉えながら読む工夫が必要である。
- グループで話し合い、その後全体で確認してから要旨をまとめるという進め方で授業を構成した。今後は、児童が自力で要旨をまとめる経験を積み重ね、叙述に基づいて文章の要旨を捉える力を、一層高められるよう、授業構想を更に工夫していきたい。

実践例

- 1 単元名 「説明のしかたの工夫を見つけ、話し合おう」
 教材名 「天気を予想する」 光村図書（第5学年・2学期）

2 本単元について

「天気を予想する」は、天気予報を科学的な情報として活用しながら、自分でも天気に関する知識を持ち、空を見、風を感じる事が大切であるということを説明した文章である。また、文章構成を意識して要旨をまとめる単元であり、児童にとって第5学年になり初めて学ぶ尾括型の説明文である。さらに、文章には様々な構成があることを理解することができるものである。

「問い」を一つの形式段落で提示し、「問い」に対する「答え」を、事実と筆者の考えを含んだ二つの形式段落で示すという構成で一つの意味段落が構成されている。そのため「問い」と「答え」を意識して、「まとめるシート」を作成し意味段落の要点を捉えていく。そして、三つの意味段落を用いて「天気予報の精度の向上」「天気予報で対応できない状況（視点の転換）」「天気を予想することの必要性」という順に論が進められ、まとめの第10段落の叙述と対応していることに気づき、筆者の主張を捉えていく。

教材文には、言い切りや読者に対する問い掛けなどの文末表現、「また」「しかし」「そこで」など既習の単元で扱ってきた接続語や指示語などが繰り返し用いられている。これらを「読むための視点」として確認し、児童が要旨を捉えるための手掛かりとしていく。また、要旨を捉える場面では、筆者の主張について叙述を基にグループで話し合う活動を設定し、叙述に基づいて筆者の最も主張したかったことは何かを話し合わせることで、児童が要旨に迫れると考える。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	筆者の表現の工夫や筆者の考え方について叙述を基に的確に読み取り、叙述を根拠として要旨を捉えることができる。					
評価 規準	関心・意欲 ・態度	・筆者の伝え方の工夫や考えに興味を持って読んだり、文章の組立を考え、話題と筆者の考えに対し自分なりの考えを持とうとしたりしている。				
	読む能力	・筆者が事例、理由や根拠として挙げている事実、論の進め方の工夫を叙述を基に読み取っている。 ・筆者の主張、根拠を叙述を基に読み取り、要旨をまとめている。				
	言語について の知識・ 理解・技能	・説明文を読むための言葉を理解している。 ・文や文章には様々な構成があることについて理解している。				
過程	時間	主な学習活動		関	読	言
課題 把握	第1時	・学習の見通しを持つ。学習課題を知り「天気を予想する」の全文を読む。 ・初めて知ったことや、疑問をまとめる。		○		○
	第2時	・全文を読み、話題提示や「問いと答え」など（説明文を）「読むための視点」をつかむ。 ・第1段落から第3段落までを読み、要点をまとめた「まとめるシート①」を確認する。			○	○
課題 追求	第3 ～5時	・表や写真、予想図を載せている意味、効果を考える。 ・第4段落から第6段落までを読み、要点をまとめる。（「まとめるシート②」） ・グラフや写真を載せている意味、効果を考える。 ・第7段落から第9段落までを読み、要点をまとめる。（「まとめるシート③」） ・グラフや表でなく、写真を載せている意味を考える。			○	
	まとめ	第6時	・第10段落で筆者の最も主張したいことについてグループで話し合う。 （本文シート・「まとめるシート①～③」） ・個人で要旨を書きまとめる。（原稿用紙）			○

3 本時及び具体化した手立てについて

筆者の最も主張したいことを見付けるという課題の解決を図るため、次のとおり手立てを具現化した。

手立て1 各段落の要点をまとめたカードを整理して貼る「まとめるシート」の活用

上で述べたように、教材文には「問い」と「答え」を表す三つの形式段落で意味段落を構成していること、同様の構成の意味段落三つとまとめの段落で文章全体が構成されているという特徴がある。そこで、形式段落ごとに「問い」と「答え」を意識して形式段落の役割を捉え、意味段落の要点を捉えることができるよう枠組みを工夫して「まとめるシート」を作成する。「まとめるシート」は各形式段落の要点を2枚のカードに書き、各段落の役割を考えながら整理して貼ることで完成させる。

手立て2 筆者の主張について叙述を基にグループで話し合う活動の設定

3枚の「まとめるシート」とまとめの段落を関連させ、筆者の主張はどれで、最も主張したいことは何か、根拠は何かをグループで話し合う活動を設定する。この活動により、叙述に即し「読むための視点」で押さえてきた接続語や指示語などに着目し、叙述を根拠として要旨を捉えることができる。

4 授業の実際

(1) 各段落の要点をまとめたカードを整理して貼る「まとめるシート」の活用（第3～5時）

児童は、第1・2時は、学習の見通しを持ち、全文を読んでの疑問や感想を書いた。また、「問い」と「答え」で文章が進んできたこと、「問い」が一つと「答え」が二つでまとまっていること、「まとめるシート」1枚ずつで、一つの意味段落になっていることを押さえることができた。

そして、次のように同じ構造を持つ3枚の「まとめるシート」にカードを整理する活動を行った。

- 第3時 「まとめるシート①」に、第1段落から3段落。
- 第4時 「まとめるシート②」に、第4段落から6段落。
- 第5時 「まとめるシート③」に、第7段落から9段落。

第3～5時の学習を通して指示語や接続語など、「読むための視点」に着目して読むことで、各段落の要点を書き抜けるようになった。「まとめるシート」に整理する際には、カードをどのように並べて「まとめるシート」に貼ると良いか投げ掛けた。このことにより、意味段落における形式段落の役割を捉えることに役立った(図2)。また、「問い」と「答え」を意識してカードを整理し貼ることを3回繰り返すうちに、多くの児童が、各意味段落が同じような構成であることに気付いていった。

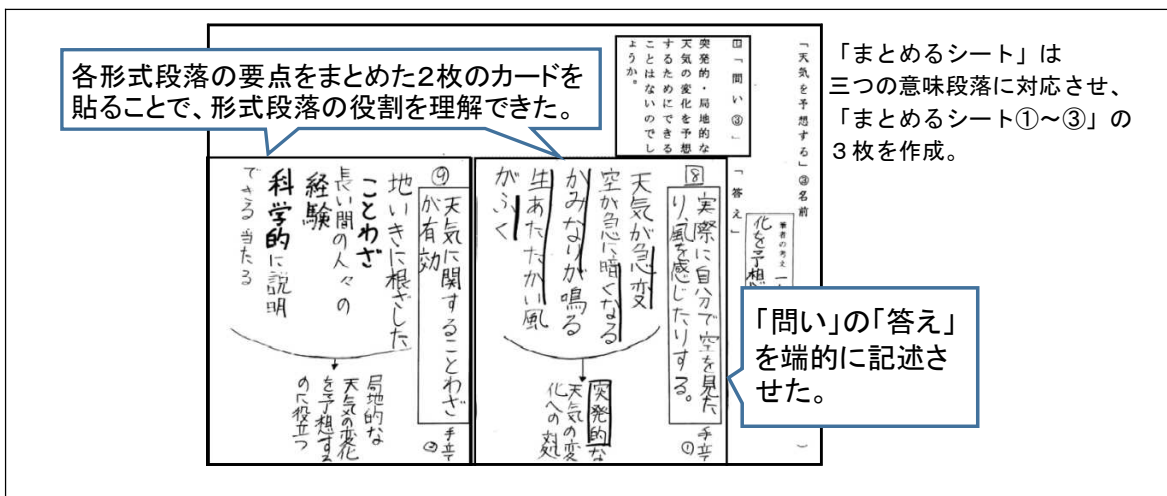


図2 「まとめるシート」の構造

(2) 筆者の主張について叙述を基にグループで話し合う活動の設定（第6時）

① 三つの意味段落とまとめの段落の関係を捉え、筆者の主張について自分なりの考えを持つ

要旨をまとめる単元が2回目なので、まず、要旨とは何か、どのようにまとめると良いかについて確認した。段落を3枚の「まとめるシート」に整理してきたことで、児童は最後に残った第10段落にまとめが示されており、要旨をまとめる際の鍵になることに気付いていった。また、第10段落の中に「まとめるシート①」と「まとめるシート③」の作成過程で捉えた要点と対応した叙述があることを捉えることができた。その上で、「まとめるシート①」（天気予報の精度の向上）と「まとめるシート③」（自分で天気を予想する）のどちらか、あるいは両方か、筆者の最も主張したいことは何かを考えた。筆者の主張を押さえるために、まず、個別になぜそう思ったのか、どの叙述に着目したのか、その根拠となる文に線を引いたり印を付けたりして考えた。多くの児童が線や印を付けた叙述は以下のとおりである。

「科学の進歩や国際的な協力の実現」「しかし」「(天気予報を)有効な情報として活用しながら、空を見、風を感じることを大切にしたいものです」「ながら」

その後、グループでなぜそう思ったのか、どこに着目したのかそれぞれ叙述を基に根拠を話し合った。

② 筆者の主張について叙述を基にグループで話し合う活動

S1: 「科学の進歩や国際的な協力」とあるから、まとめるシート①が筆者の一番言いたいことだ。
 S2: 「しかし」と書いてあるから、「科学の進歩や国際的な協力」とか前よりも後のことが言いたいことだよ。「しかし」は、前の文を否定している。
 →まとめるシート①よりも、まとめるシート③に考えが変わっていった児童が多かった。
 S3: 「大切」って書いてあるから、一番言いたいことはここだよ。

→自分の本文シートに追加して書き込んでいる姿が見えた。

S4:「ながら」ってあるよ。だから、もっと前もいるよ。まとめるシート①も、まとめるシート③も両方とも必要だよ。

→「科学的な天気予報を一つの有効な情報として活用し」にも線を引き足した。

まとめるシート①としたグループは1班。まとめるシート③は3班。両方としたのは2班あった。

③ 学級全体で筆者の主張について話し合う活動

T: 筆者の言いたいことは、まとめるシート①のことだと思う人は? まとめるシート③? 両方? (挙手させた上で) どうして、そう思うの?

S1: 「しかし」から後は、文が変わっているよ。前を否定しているから。

T: 「しかし」以降が大切な文なんだね。

S2: 「自分で空を見、風を感じることを大切にしたいものです」のところに、「大切」と書いてあるからまとめるシート③だよ。

T: 「大切」と書いてあるから、まとめるシート③の方がより筆者の言いたいことなんだね。

→学級全体が、まとめるシート③の方に考えが変わっていった。

T: では、まとめるシート②は必要なかったのかな。

S3: 必要。まとめるシート②は話題を変えているんだよ。天気予報だけじゃだめだから。

T: なるほど。まとめるシート②があると天気予報だけでは足りないと分かるんだね。筆者の文章の進め方の工夫だね。では、まとめるシート③の自分で空を見て風を感じればいいのか。筆者はそれだけ言いたいのかな。

S4: 違う。「ながら」ってあるから両方大事。

T: 両方って何と何のこと。筆者の言いたかったことをまとめるってどういうことかな。

→自分で天気に関する知識を持ち、自分で天気の変化に気付くことだけでなく「天気予報も有効な情報」であり、「天気予報も必要」と言っていることに、その他の児童も気付くことができた。

④ 要旨を書きまとめる活動

全体で筆者の最も言いたいことは、「科学的な天気予報も大切だが、自分で空の変化に気付くことの方が大切だ」と確認した上で、100字程度で要旨をまとめるよう指示を出し、原稿用紙を配付した。

「天気予報も有効な情報であることと自分で天気を予想すること」の両方を入れて書けた児童は15人で50%、「自分で空を見、風を感じることを大切にしたい」のみ書いた児童は6人で20%、「天気予報」のみのみ書いた児童は3人で10%、筆者の主張を入れず「天気の変化を予想するのは一人一人」で止まってしまった児童は3人で10%、文と文のつながりがなく、まとまりのない文章を書いた児童は3人で10%、要旨が全く書けない(無答)児童は一人もいないという結果だった。

天気予報の精度は向上してきたが、天気の変化を予想し、次の行動を判断するのは、そこにいる一人一人だ。天気予報を一つの有効な情報として活用しながら自分でも天気に関する知識をもち、自分でも空を見、風を感じることを大切にしたい。(110字)

図3 児童の書いた要旨

5 考察

説明文に対して難しい、苦手といったイメージを持っていた児童も、本実践を通して改善が図られた。段落の要点をカードにまとめて書くことで要約することに意識を向けることができた。また、「まとめるシート」に整理することで、「問い」と「答え」を表す三つの形式段落で意味段落が構成されていることを捉えることができた。さらに、三つの「まとめるシート」の順を入れ替えることが、筆者の論の進め方の工夫を理解し、筆者の主張を捉えることにつながった。1学期の同様の実践で要旨が書けなかった児童も、本実践ではすぐに要旨を書き始めており、二つの手立てが有効に働いたものと考えられる。

今後、児童が要旨をまとめるに当たり、「読むための視点」を繰り返し使って読み、段落の要点を自分なりに工夫しまとめさせることと、どこに筆者の主張があるのかを探すために既習事項を活用させることなどの工夫が必要である。さらに、グループでの話し合いで、叙述を基に読みを深められるようにしていく。